

設計コース（オンデマンド研修）

汚泥処理設計の解説と留意点

1. 対象者 建設コンサルタントの担当で、下水道施設設計業務に携わる方。
設計経験の浅い方からベテランの方まで。設計部署・計画部署の方。職種分類無し。
2. 目 標 下水道施設計画・設計指針と解説（前編・後編）を主な参考図書とし、下水道施設の汚泥処理設計を全般的に解説する。概念図や根拠資料などを含むテキストから汚泥処理の仕組み・原理・留意点などの設計するうえで基本となる知識の理解を深め、自分の職種の土台となる知識に加える。
3. 申込期間 令和8年4月1日（水）～令和9年2月19日（金）
4. 配信期間 申込を頂いてから5営業日以内に動画のURL、パスワードをご案内します。
動画のURLを送付した日から15日目まで視聴可能となりますので、
申込するタイミングにご注意ください。

例：4月1日14時に動画URLを送付→4月15日23：59まで視聴可能
5. 視聴時間 約12.5時間
6. 受講料
（円・税込） 69,300
7. 主な講義内容

視聴時間	講義内容
約12.5時間	1. 汚泥処理の概念・イメージをつかむ
	2. 下水道で使われる設備
	3. 濃縮・消化について
	4. 脱水後の処理について
	5. 脱臭について
	6. 汚泥処理施設設計（共通事項・指標など）
	7. 既存施設の評価と見直し・見直し事例
	8. 新技術導入の留意点について

※「水処理設計の解説と留意点」、「汚泥処理設計の解説と留意点」、「揚水施設設計の解説と留意点」については、

一部重複する内容を含みます。なお、研修センターでは上記3つの研修を全て受講されることを推奨しています。

- 録画や申込者本人以外の視聴は禁止しています（参照：オンライン研修受講規約）
- 上記は標準的なカリキュラムであり、実施カリキュラムは予告なく変更する場合があります。
- オンデマンド研修は「クラウドストリーム」（動画配信システム）を使用して行います。

事前に日本下水道事業団のホームページに掲載している確認用動画を視聴の上、お申し込みください。

- 令和7年度から公開している内容とおなじものになります。

1. 基準類・参考図書
2. 本講義の目標

P 6 ～

第1部 汚泥処理の概念・イメージをつかむ

1. 汚泥処理の目的
2. 汚泥処理の概念イメージ
3. 計算式(濃度・含水率)
4. 固形物量・含水率(水分量)・固形物収支
5. 設計諸元
6. 水質項目の概念

P 41 ～

第2部 濃度・有機分・無機分(灰分)のイメージ

1. 固形物量・含水率(水分量)
2. 濃度・有機分・無機分(灰分)のイメージ
3. 乾燥
4. 炭化
5. 焼却
6. 熔融
7. 消化
8. コンポスト化
9. 留意点

P 55 ～

第3部 設計時に配慮すべき主な環境関連の法令

1. 設計時に配慮すべき主な環境関連の法令
2. 利活用の場合・・・廃棄物？有価物・資源？
3. 運搬・処分・利活用の制約を勘案して設計する

「下水道民間研修(設計コース)」

共通編

「汚泥処理設計の解説と留意点」

第4部 汚泥脱水 P 71 ～

1. 汚泥脱水
2. 汚泥脱水設備・機種の特徴など
3. 返流水
4. 汚泥性状の分析と脱水機選定への反映について
5. 脱水機の設計

第5部 汚泥濃縮 P 111 ～

1. 汚泥濃縮
2. 重力濃縮
3. 機械濃縮

第6部 汚泥消化 P 143 ～

1. 消化
2. 消化(イメージ)
3. 消化施設の計画と設計
4. 固定価格買い取り制度(FIT・FIP)

第7部 脱水以後の処理について P 178 ～

1. 脱水後の処理
2. 焼却
3. 乾燥
4. 炭化
5. 熔融
6. コンポスト
7. 肥料化
8. 集約処理

第8部 汚泥処理の脱臭について P 223 ～

1. 脱臭
2. 脱臭方法

第9部 汚泥処理施設設計(共通) P 233 ～

1. 汚泥処理設計(共通事項)について

第10部 汚泥処理設計 P 267 ～ (その理解に必要な各種指標など)

1. 汚泥処理設計
(その理解に必要な各種指標など)

第11部 既存施設の評価と見直し P 275 ～

1. 既存施設の評価と見直し
2. 既存施設・運転状況から気づくこと: 事例
3. 基本計画 設計諸元の見直しの事例

P 297 ～

第12部 改築時におけるシステム見直し事例

1. 改築時におけるシステム見直し事例

第13部 新技術の導入について P 307 ～

1. 新技術の導入について